

免疫グロブリン製剤の供給困難についての情報提供

川崎病の急性期治療における免疫グロブリン静注療法は、平成 24 年改訂版の川崎病急性期治療のガイドライン上第一選択に位置付けられております。しかし、近年、成人領域で免疫グロブリン製剤の大量療法の適応疾患が拡大されたことにより使用量が増加する一方、免疫グロブリン製剤の供給は献血による製造のため供給量に制限があり、一部の製薬企業からは従来のような供給が困難となる見込みがあるという情報が医療機関に提供されています。

今後、成人領域の免疫グロブリン製剤の適応は、他の企業の製剤にも拡大されることが予想され、これまでのように川崎病急性期治療を行う上で十分な免疫グロブリン製剤の供給量を確保することが困難になる可能性も出てきています。製薬企業側は、安定供給に向けた対策を検討中ということですが、免疫グロブリン製剤の製造が献血に依存している以上、これまで通りの安定供給がなされるかどうかは定かではありません。

学会としては、免疫グロブリン製剤の供給体制について情報収集と対応について関係各所と検討を始めておりますので、今後新たな情報が確認できましたらまた会員の皆様にご報告させていただきたいと存じます。まずは現時点で供給不足の恐れがある状況があるということについて情報を提供いたします。

2019 年 7 月

特定非営利活動法人日本小児循環器学会

理事長 坂本 喜三郎